

1 次の文章の空欄(1)～(5)にあてはまる言葉をそれぞれ次のア～オから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

(1) **イ**、世間では好き嫌いはよくないことだされている。とはいえ、人間には心があり、心には感情がある。(2) **ウ** 好き嫌いの気持ちがあるのは当然のことだ。松や桜や、梅や竹など様々なものがあるから自然は面白いのと同じく、人間にも好き嫌いなどの感情の違いがあるからこそ、(3) **エ** 面白いのだ。(4) **ア**、好き嫌いの感情にこだわってはいけない。自分の好き嫌いを頑固に押し通せば、それはわがままである。(5) **オ**、自分が嫌いなあの人を、他の人も嫌うべきだ、というような考えは、わがまま以外の何ものでもない。その人は、自分にとって嫌いな人であっても、他の人にとっては大事な人かもしれない。松を愛する人、桜や梅や竹を愛する人、いろいろな人がいるからこの世は面白いのである。

ア だが イ なるほど ウ だから エ むしろ オ 例えば

- (1) イ (よくある意見をいったん認める) (2) ウ (原因から結果)
 (3) エ (どちらかというところ) (4) ア (予想と違う方向) (5) オ (例をあげる)

2 次の文章の空欄(6)～(10)にあてはまる言葉をそれぞれ次のカ～ケから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

自分の力を信じられない時に人は怖じ気づくものです。目の前にいる相手が自分よりも勝っていると思うと、怖くて仕方が無い感情にとらわれてしまうのです。この時、「いや、自分は相手よりも勝っている。(6) **ク**、何も恐れることはない。」と自分に言い聞かせるという対処方法があります。でも、この方法は、自分に嘘をつき、相手の本当の姿を見ようとしないうけですから、(7) **コ** うまくいかないでしょう。(8) **カ** うまくいったとしても、大変に気疲れしてしまいます。これに対して、「相手には力がある。(9) **ケ** 自分よりも勝った力である。」と認めた上で、(10) **キ** 相手はその力を、自分を攻撃するためには使わないだろう」と信じて、自分も相手に対して自分の最大限の



誠意を尽くすという方法もあります。こちらの方がはるかに誠実な対処法です。もしあなたが、誰かに対して怖じ気を感じた時には思い出してみてください。

カ たとえ キ しかし ク したがって ケ しかも コ きつと

- (6) ク (原因から結果) (7) コ (〜でしよう、とセツト)
(8) カ (〜としても、とセツト) (9) ケ (重要な内容を加える)
(10) キ (予想と違う方向)